

ヒゲトロ&ウドン 暖期の浅ダナ セツト釣り

最近の傾向

暖期のセツト釣りは、いわゆるトーナメントの釣りで見られがちだが、最近はその大きな効果が広く認められ、多くの一般釣り人にも浸透してきている。

中小ベラの多い管理釣り場で、数釣りがメインだった頃は両ダンゴの釣りが主流だったが、この10年、管理釣り場の魚が大型化するようになると、両ダンゴだけでは太刀打

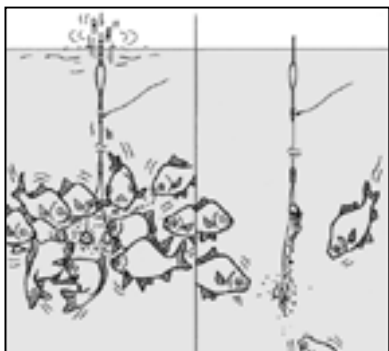
ちできなくなった。

セツト釣りは、バラケで寄りの状態をコントロールしながら、くわせで確実に釣っていくことができる。だが、両ダンゴでは、そのコントロールができなくはないが、非常に狭く難しい。その狭く難しいところが時間のロスとして現れてしまう。短時間勝負の釣りにおいて、エサ合わせが難しくければ難しいほど時間が掛かり、釣果に結びつかなくなっているのだ。

両ダンゴで打ち始めると、最初は面白いように

いいアタリで乗ってくるが、次第にカラツンやスレが多くなる。これはヘラ鮒が寄りすぎたため。セツト釣りは寄せるためのダンゴがひとつ。すなわち両ダンゴの打ち始めと同じ状態を長く保つことができ、余分なカラツンやスレを防げるのだ。

さらに、セツト釣りは両ダンゴより短いハリスが使える



両ダンゴでへら鮒を寄せすぎると、スレやカラツンが増え、釣りにくい。セツト釣りであれば寄せる量をコントロールできるので、釣りやすくなる。

のも特徴のひとつ。浅ダナの釣りでは短いハリスほど余分なアタリが出にくく、強い食

仕掛け図

竿 8尺
ミチイト 0.8号
ハリス 0.4号
ウドンのとき =
上5~8cm、下10~20cm
ヒゲトロのとき =
上5~9cm、下8~18cm

ウキ ポディー 4~6cm

ハリ
(ウドンのとき)
上3~5号下2~5号
(ヒゲトロのとき)
上下4~6号

パターン 1

ウドンでも「ヒゲトロ」でもOKの単品仕様

パウダーベイトセット400cc + 水100cc



くわせ

くわせは、「ヒゲトロ」か「彩」を使う。基本的な考え方は、ダンゴへの反応が強いときは「ヒゲトロ」、渋いときは「彩」と覚えておこう。



●エサ使いのコツ

単品でも役割充分の「パウダーベイトセット」だが、これに「底バラ」をブレンドする応用もある。単品で軽すぎると思えば、「パウダーベイトセット」300cc + 「底バラ」100cc + 水100ccや、「パウダーベイトセット」200cc + 「底バラ」200 + 水100ccなど。さらには逆転させ、「パウダーベイトセット」100cc + 「底バラ」300cc + 水100cc。この配合は粉4対水1で丁度良くできるのでどのブレンドが良いか迷っている人にはおすすめです。



エサの大きさ&オモリ量 バラケ

バラケのサイズ
エサの大きさは、直径1.5cmくらいで、きれいに丸く付ける。



くわせ

くわせのウドンは、6×6mmくらい。トロロは、少量をハリに引っ掛ける。



板オモリ
実寸大

オモリのサイズ

ポディー4～6cmの小ウキを使用するので、0.25mm厚の板オモリでオモリ負荷は8mm×15mm～15mm×20mmといったところ。

いアタリを出すことがとできるつまりセツト釣りにすることで、余分なアタリを減らし、強いアタリだけを取ってつける状態を作っているのである。

この釣りの基本的な考え方は、短竿、小ウキ、短バリスだ。短い竿で多くの寄りを必要とせず、小ウキによって、カラツンを減らす。短バリスによって、余計なアタリを出さない。この組み合わせにより、アタリを確実に釣果に結び付けていく釣りだ。

さらに、細めのミチイト・

ハリスを使うこと。細いラインを使うのは、使うウキが小さいからで、ラインによる抵抗を少なくするためだ。またセツトとはいっても、暖期は下ハリスが短くて十分である。大会などでへら鮒を引張りつこすると、一人当たりの量はぐんと減る。ある程度寄せても、へら鮒が競い食いするほどの量には足りないことが多い。この状態が作れないと、ダンゴでの釣果は伸びない。おのずとセツト釣りが有利になっていくのである。

パターン 2

ウドンセットのバラケはやや重めが基本

ダンゴの底釣り夏100cc +
新B200cc +
セット専用バラケ200cc +
水200cc + 軽駄200cc

くわせは「彩」
または、「感嘆」



●エサ使いのコツ

これを基エサに、「軽駄」で持たせ
具合を調整する。くわせは「感嘆」、

「特選わらび・彩」。バラケをはやめに抜いて釣れる場合はこのままのブレンドだが、持たせた方がいい場合は、このブレンドでは重くなり、ウ

キが沈没してしまうので、水50ccを加え「軽駄」を200ccずつ加えていく手直しがいいだろう。軽くなり芯持ちも良くなると思うわけだ。

パターン 3

「ヒゲトロ」セットのバラケはやや軽めが基本

特S 200cc + GTS 400cc +
浅ダナー一本200cc + 水200cc +
バラケマッハ100ccまたは、
浅ダナー一本200cc

くわせは
「ヒゲトロ」



●エサ使いのコツ

ネバ系のダンゴタッチのバラケで、そのまま両ダンゴへの移行も可能。ポソッ気が欲しいときは「バラケマッハ」、持た

せたいときは「浅ダナー一本」でしめる。「ヒゲトロ」のセット釣りの場合、余計なアタリが出るときはバラケのネバリが足りないか、下ハリスが長い。手水で押し練りを加え、落ち着きが出ないときは下ハリスが長いと考えよう。

または、



暖期の浅ダナセット釣り こんな時どおする?

Q¹
最初は
良いアタリで
釣れていたが
次第にカラツンに
なってきた

A¹
これは最も良くあるケース。エサ打ちを繰り返すことで寄りが増えてきたため、下ハリスが長すぎることが考えられる。まず、1～2cm短くしてみよう。それでアタリが消えてしまったら、原因は下ハリスの長さでなかったということなので、下ハリスを元に戻し、バラケの大きさの変化をつけてみよう。

バラケの大きさの変化により、魚がアタックする位置が変わってくるので、カラツンが消えることがある。さらに、バラケの一部に手手を加えやわらかくしてみる。やわらかいものと元のエサを打ち分けて芯持ちに変化をつけてみる。またバラケの一部に「軽駄」を足してボソを出してみる。そして元のバラケに戻す。

始めきちんと当たって乗っていたということはそのエサが正解に近いと言えるので、そのエサの周辺を探ることで、方向性が見えてくるはずである。

またかなり時間が経ってしまったときは、同じ配合で作り変えるが、今度は少なめに作って経時変化が出る前に使い切るように調整しよう。

Q²
ウキが突き上げ
られるような
動きをする

A²
これは、バラケが持っていないと判断する。バラケがタナまで持っていないということは、狙うタナより高い位置でエサがバラけてしまっているため、へら鮒がウワズリ気味になり、こういう動きが出やすくなる。対応としては、「スーパーD」などを加え硬めに練り込んでみること。

Q³
ウキが踊るように
動くが、きちんとした
決めアタリが出ない

A³
上バリのエサがバラケ過ぎているため、へら鮒を集中して寄せられていないので、余計な動きが出てしまう。まずは、バラケを練り込んで、開きを抑えてみることだ。それでもウキの動きがおかしいときは、バラケへの反応が強すぎると判断し、上ハリスを短くする。さらに、余計なアタリが多いときは下ハリスも短くする。

Q⁴
バラケがボソでも
やわらかくしても
カラツンばかり

A⁴
これは、くわせエサが合っていないと考えられ、ウドンを使っているときに起こりやすい。このような場合は、すかさず、くわせエサを「ヒゲトロ」に替えてみる。その際に、下ハリスを少し短くするのがコツだ。

Q⁵
段々アタリが
少なくなってきた

A⁵
ベレットが効果的な池で、ベレットの入っていないバラケを使っていると起こりやすい現象。この場合、バラケをベレット入りの配合に替えてみる。

また重過ぎるバラケでもこのようなことが起きるので、ベレット系や、底釣り系エサを少なくして作り変えることも必要。